

# アントレプレナーシップ教育アワード 2026

## エントリー校一覧

※都道府県コード順（校名五十音順）

※「★」は最終発表会に選出された受賞者および受賞団体

### 札幌市立月寒中学校（北海道）

#### 「札幌市立月寒中学校 3年間の体系的アントレ教育の実践」

「変化をチャンスと捉え、価値を生み出す」を定義に、3年間の体系的な探究学習を実施している。中核となる2学年では、生徒が「9つの専門部隊」に分かれ、市内50事業所の現実的な課題解決に「当事者」として挑戦した。この経験を外部登壇や3年時の模擬起業へ接続し、地域社会に実際に提案・実装する活動を通して「自らの力で社会は変えられる」という高い自己効力感を育成していく。

### 白樺学園高等学校（北海道）

#### 「地域探究」

本取組は、協働共創やコミュニケーション、人間性といった力を育てることを出発点に、学校での学びと地域での体験を行き来しながら探究を進める実践である。生徒が最初から問いを持てることを前提とせず、体験や大人との出会いを通して「やってみたい」を育て、そこから探究へとつなげる。学校・行政・地域が連携し、生徒と大人が共に学び続ける教育の形を目指している。

### 中富良野町立中富良野小学校（北海道）

#### 「社会と繋がり自分を伸ばす「コトづくり探究」

地域資源を活用し、日本全国のスペシャリストと協働してものづくりを行い、届けた相手の心に変化を起こすことを目指す授業を「コトづくり探究」と名付け、総合的な学習の時間280時間で実施。3年ドライフラワー配布、4年すごろく制作、5年観光ガイド、6年万年筆インク開発と、学年が上がるごとに内容が高度化します。5つの力(関わる・集める・実行する・創造する・続ける)を児童が生き生きと発揮する実践です。

### 北海道岩見沢緑陵高等学校（北海道）

#### 「市役所と築き上げた探究活動のカタチ(興味関心×地域課題)」

本校普通科の総合的な探究の時間では、地域(岩見沢市を含む空知地域)の課題解決のための方策を考える探究活動を行なっている。特色は、岩見沢市経済部商工労政課商工労政係の創業支援事業との連携である。同事業の一環で、北海道大学及び北海道教育大学岩見沢校の協力のもと、アントレプレナーシップを育むワークショップや大学生と共同で活動する場を生徒に提供している。また、市内企業との円滑な連携を可能にしている。

### 北海道札幌国際情報高等学校（北海道）

#### 「身の回りの社会課題を解決する Web アプリの提案」

身の回りの社会課題を問い、アイデアだけではなくプロトタイプを作成とインタビューによるブラッシュアップを繰り返すことで、人から必要とされる価値とは何かを考える取組みである。日本版EntreComp v1の「試してみる」に焦点をあてた授業から、生成AIを活用しても避けられない試行錯誤の過程を経験し、人との対話を通して多くの気づきを得る。失敗からどのような価値を見つけるか、意識の変容について考える。

## 北海道札幌西高等学校（北海道）

### 「問いが人を突き動かし世界を変える―多層的連携による価値創造探究」

本校のスクールミッション「次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造に貢献できる生徒の育成」を具現化する取組です。生徒の感性を起点に「問い」を言語化し、自律的な個人探究や北海道大学等と連携した社会実装プログラムなど、多様な「探究チャンネル」を設置。生徒一人ひとりが自らの興味を価値創造へと繋げ、未知の領域へ挑戦するアントレプレナーシップを育む教育環境を構築しています。

## 常盤木学園高等学校（宮城県）

### 「起業家精神教育「スタートアップ」」

持続可能な社会の担い手として社会や地域の課題を私事化し、「起業」をテーマにその解決のための提案力や実行力を身につけることを目的にしたプログラムです。1年次には起業家を招いての講演やワークショップを実施。2年次にはコワーキングスペースへの来訪、起業プラン作成と起業家の前でのピッチ大会を軸にしたプログラムを実施。1、2年次に設定されている1単位相当の学校設定科目です。

## 山形県立鶴岡工業高等学校（山形県）

### 「価値と革新で未来を動かす「鶴工シルクプロジェクト」」

前身を含め創立130周年の伝統を「価値(V)」とし、最先端の「革新(I)」を掛け合わせ、未来を動かす「パワー(P)」を育む実践である。1・2年次の探究学習、3年次の課題研究を土台に、有志による特別プロジェクトとして社会実装を展開。伝統産業であるシルクをテーマに、企画・デザイン、製造、知的財産権(商標権)取得、PR活動までを生徒主導で行い、持続可能な地域づくりを担う主役を育成する。

## ★茨城県立下妻第一高等学校（茨城県）

### 「生徒の主体性を育むアントレプレナーシップ教育」

下妻一高のアントレプレナーシップ教育は「為櫻探究」を核とする。1年次で地域課題解決、2年次で専門「ラボ」に分かれ、学校が掲げる「逆境に立ち向かう力」を養う。楽天や地元企業と連携し、ビッグデータ分析や商品開発、ふるさと納税返礼品の企画等、実社会と結びついた実践を展開。単なる起業家育成に留まらず、AI時代を生き抜く主体性や発想力を育む。デジタルと探究を両輪とした独自の次世代人材育成プログラムである。

## 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校（茨城県）

### 「地域を拓く「商業×探究」アントレプレナー型課題研究」

本授業は、商業科3年生が擬似会社を設立し、地域課題の解決を通して価値創造に挑む社会実装型の探究です。社名の決定から始め、「誰にどのような価値を届けるか」を明確にし、商品開発・イベント運営・情報発信に取り組みます。地域企業・大学等と連携し、調査→企画→実行→発信を循環させながら、問いを立て行動できるアントレプレナーシップを育成し、実社会での検証と改善を通して学びを深化させます。

## 土浦日本大学中等教育学校（茨城県）

### 「「起業=問題解決」として人生を主体的に切り拓く生徒の育成」

本取組は、放課後ゼミ活動におけるアントレプレナーシップの育成を目指す教育活動である。本校の教育目標の「多様化する世界において格差を乗り越え、グローバル社会に貢献する人材を育成する。」生徒の育成を目指し「起業=問題解決」の視点から身近な社会課題の探究を行う。教科横断的アプローチや社会との連携により、生徒のキャリア意識の醸成と、未知の課題に対応できるリベラルアーツの育成や主体的な実践力を実現している。

## 千葉県立佐倉南高等学校（千葉県）

### 「夜道から社会を変えるー健康まちづくりプロジェクト」

夜間部の生徒の「健康ではないかもしれない」という内省を出発点に、誰もが歩きやすい・歩きたくなる夜道を社会に実装。地域コーディネーターと連携し、地元企業とアイデアを練り、行政へ提案、クラウドファンディングで資金を調達し実装したアントレプレナーシップ教育である。生徒は蓄光パネル設置やイベント運営まで担い、個人的課題を社会課題へ翻訳し価値創出を経験した。実装後も修繕と継承を通じ持続的な学びへ繋げている。

## ★千葉県立特別支援学校市川大野高等学園（千葉県）

### 「生徒運営の校内コンビニ～地域とつくる「流通・サービス」実践～」

知的障害のある生徒が近隣コンビニエンスストアと連携し「校内コンビニ SmileMart」を運営する取組である。発注、仕入れ、販売、売上管理のサイクルを生徒主体で回し、他コースの製品も扱うアンテナショップとして機能させている。実社会に即した「商品管理」の学習を通じて、主体性や働く力を育むとともに、関わる人全員が笑顔になることを目指す。本実践は、生徒の「やりたい」を起点に教育と社会を接続する取組である。

## かえつ有明中・高等学校かえつ有明中・高等学校（東京都）

### 「Next Innovator × 学校教育 ピッチフィードバック」

本取組は、起業家育成プログラム「始動 Next Innovator」と学校教育を接続し、生徒が実社会で挑戦する起業家のピッチを聞き、問いを立て、フィードバックを行う実践である。生徒は評価される立場ではなく、社会に対して問い返す立場として参加し、起業や社会課題を自分事として捉える力を育成することを目的とした。オンライン・対面の両形式で実施し、学校と社会の垣根を越える学びの場を構築した。

## 東京電機大学中学校・高等学校（東京都）

### 「生徒が企画・運営!4者協働のアントレプレナーシップ教育講演会」

起業家の方(株式会社 MIXI 取締役・村瀬龍馬氏)を招き、ゲーム開発と AI 活用を題材とした講演会を実施。企画・広報・司会進行を生徒自身が担う「生徒主体」の運営を行い、アントレプレナーシップの実践の場とした。本校中学生・高校生・保護者に加え、近隣中学生へも門戸を開いた「4者協働」の地域公開型イベントとして設計。生徒満足度 96%を達成し、次世代のイノベーター育成と地域連携の第一歩を踏み出した。

## 神奈川県立平塚中等教育学校（神奈川県）

### ★「発明王（1年生対象）」

中高一貫6カ年の探究学習の起点となる中学1年生向け企画「発明王」。特許審査 AI「AISamurai」を用い、生徒のアイデアを判定する。単なる評価に留まらず、AIの診断結果を基に案を練り直す「試行錯誤」のプロセスを最重視。自分のアイデアが社会に通じる可能性への期待と、失敗を改善で乗り越える経験を通じ、将来の複雑な課題解決に必要な自己効力感と挑戦する力を育む。

### 「発明王 2.0（4年生対象）」

本プログラムは、1年次の「発明王」を土台とした、4年生(高校1年)「じぶんラボ」での発展プロジェクト「発明王 2.0」です。生徒は連携企業から提示された実社会の課題に対し、解決策を立案・プレゼンします。特許審査 AI「AI Samurai」を用いた高度な分析を経て、単なるシミュレーションに留まらず、実際に特許出願を行うという、実社会のルールに直接参画するプロセスの完遂を目指します。

## ★新潟県立中条高等学校（新潟県）

### 「中条高校未来探究～WILLを技術と対話で社会実装する～」

自らの意志(Will)を起点に、他者と協働して新たな価値を創造する「生き方としてのアントレプレナーシップ」を育みます。地域をフィールドに、大学生メンターが伴走する「中条高校未来探究」を通じ、生徒は自ら掲げた問いを社会に実装する経験を積みます。このプロセスが、受動的な学習者を「自らの人生と社会を自ら創り出す主体」へと変容させます。地域との繋がりの中で、未来を自ら切り拓く力を生徒が獲得します。

## ★白川村立白川郷学園（岐阜県）

### 「白川郷学園「ひとりだち学習」

本学園では、総合的な学習の時間、1、2年生の生活科の授業の一部を活用して、特別の教科「村民学」を開校以来、実践している。本年度から、この「村民学」の中にアントレプレナーシップを学ぶ「ひとりだち学習」を位置付け、「白川村や社会の中にある困り感から課題を見出し、仲間と協働してそれらを解決するために失敗を恐れずに考え、挑戦することを通して、村民の一人として新たな価値を創り出していく力」を育むことを目的に、9年間を通じた実践を行っている。

## 名古屋国際中学校・高等学校（愛知県）

### 「ピラミッド型プラットフォームで「ゼロイチ」を生み出す教育体制」

アントレプレナーシップ教育には、第一に教員のアントレプレナーシップ獲得と生徒に対して個別最適な学びが重要だ。そのためには多様なステークホルダーとの出会いが不可欠であり、そこで得られた情報(能力・マインド)を多様な時・場面で全教員/生徒、学外に浸透させる体制が必要だ。本実践活動は、ネットワークの構築と段階的な学びを提供できるピラミッド型プラットフォームを構築することでその実現を図るものである。

## 名古屋市立有松中学校（愛知県）

### 「Ideation Spark プログラム」

自己理解を通して自分の考え方や価値観に気付くこと、固定観念を打ち破り、仲間と協働しながら新たな発想を生み出すことを目的に授業を展開した。はじめに自分の生き方や考え方について内省し、「文房具」というテーマを設定して、構成要素を視覚化した。テーマとPOPなど魅力的な言葉を掛け合わせ、既存のものから新たな組み合わせを創造する活動を通して、誰かの困りごとを解決する商品を考案し、魅力を伝える活動を行った。

## 名古屋市立円上中学校（愛知県）

### 「しごと探究の旅～出会いがひらく、わたしの可能性～」

本取組は、アントレプレナーシップの視点を内包し、社会との関わりの中で価値を生み出そうとする姿勢を育む職業観涵養プログラムである。生徒の興味・関心を起点に、「今ある仕事編」、「新しい技術編」、「生み出す仕事編」という段階的な体験学習を通して、社会と自分との関係性に目を向け、将来の姿を具体的に描きながら、自らの意志で進路を選択していく力を育む。

## 名古屋市立菊里高等学校（愛知県）

### 「みんなのなぜが社会につながる～マイテーマ追究型個人探究～」

ディベートや課題研究を通じてグループで探究サイクルを体験した後、個人探究に挑む。それぞれの興味関心、進路、身近な疑問、困り事から生まれるテーマから探究課題を明確化し、仮説を立て検証する。個々に独自の研究計画を立てる際、視察、専門家へのインタビュー、アンケートなど、複数の手法を組み合わせるよう促す。過程では卒業生を中心とする外部人材に個別のアドバイスをもらう機会を設け、試行錯誤と自走を促進する。

## 名古屋市立高針台中学校（愛知県）

### 「援助希求行動実践学習」

生徒たちはそれぞれの日常に目を向け、「あったらいいな」と思う新商品をグループで考案。次に、学校に招いた税理士、中小企業診断士、銀行員、経営者などを頼りながらアイデアの具体化と事業計画書の作成に取り組み、最後にクラスメイトを投資家に見立てたアイデアピッチ大会を実施した。自分たちが考えた新商品の事業計画を立てるという難題を、仲間と協力しながら、専門家も巻き込みながら解決することで援助希求力の育成を目指した。

## ★京都橘中学校・高等学校（京都府）

### 「チェンジメーカープロジェクト ~課題の当事者意識を育む~」

京都市内の事業者様と連携し実施するカリキュラム。自社で抱えている課題をミッションとして提供してもらい、中学3年生がチームで解決策を考え、事業者様に提案する。企業訪問や複数回の打ち合わせを通して本気のフィードバックを受け、提案を再構築し、最終報告会で提案する。試行錯誤のサイクルを重ねながら、「提案者」に留まらず、社会課題に向き合う「当事者」として行動する姿勢を育む授業である。

## 同志社中学校・高等学校（京都府）

### 「自分に問いを投げかけて新しいアイデアや仕事を見つける」

京都市と連携した技術科の特別授業であり、課題解決の過程を起業家との対話を通じて新しい価値を生み出そうとする姿勢へと繋げたものである。起業を最終目的とは設定せず、起業家の語りを成功談としてでなく意思決定の教材として設定した。本校の課外活動「学びプロジェクト」とも繋げながら、正課・課外・地域連携による学びの網の目の中における一つの結節点として、本授業が位置づいている。

## 洛星洛星高等学校（京都府）

### 「ベンチャービジネス入門」

進学校の枠を超え、洛星高校で「やりきる」アントレプレナーシップ教育を推進しています。講座では自分の「好き」を起点に、プロトタイプ作成予算10万円をかけたプレゼン大会や、単にプレゼンに留まらず試作開発・収益化まで行う体験を重視。生徒のアイデアを単なる発表で終わらせずに社会実装させます。この試行錯誤のプロセスが自ら進路を切り拓き、不透明な時代を牽引する真のリーダーを育てると信じて取り組んでいます。

## 立命館宇治中学校・高等学校（京都府）

### 「マイテーマとしての起業プラン作成~総合的な探究の時間の実践~」

高校3年次の総合的な探究の時間において生徒は自分が興味あることや創りたい未来に向けて、成果物を作成する。その際により良い未来を経済的に持続可能にするということから起業プランも認めている。起業プラン作成をする生徒の裾野を増やすということもねらいとし、大学とも連携して多くの学校の生徒が集まって起業プランを作成する「起業キャンプ」も実施している。

## 兵庫県立伊丹高等学校（兵庫県）

### 「社会を変えるエージェンシーを育む「GLiS アントレ・プログラム」」

「GLiS(グローバル・リーダーズ・イン・サイエンス)類型」の1年生40名を対象とした通年プログラムです。一学期に外部専門機関(ガイアックス等)や地元企業と連携し、ビジネスを「社会課題解決の手段」と捉えるマインドを醸成します。二学期から地域行事(防災フェス等)の企画運営やビジネスプラン作成、地元企業へのピッチを通じ、自律的に社会へ働きかける「エージェンシー」を育成します。教員も生徒と共に学ぶ「共学体制」を敷き、学校全体で挑戦を後押しする文化を構築しています。

## 兵庫県立加古川東高等学校（兵庫県）

### 「アントレプレナーシップ探究」

昨年度までに実施した STEAM 特講「起業家セミナー」「起業家ワークショップ」で得た成果を踏まえ、今年度から普通科探究 II にアントレプレナーシップ教育を導入した。本校の探究プロセスである「課題設定一仮説立案・検証一解決策創出」に、社会実装を見据えた学びを組み込んだ。生徒が身近な「いい困りごと」から社会課題を捉え、WHY・HOW・WHAT で構造的に探究する手法を活用し、高い意欲とワクワク感をもって挑戦できる環境を整えた。

## ★西大和学園高等学校（奈良県）

### 「進学校の「知」と「実践力」の融合を。未来を切り拓くアントレプレナーシップ教育」

本プログラムは、社会に変革をもたらす「本物の人材」の創出を目的とした、学校認定単位の授業。生徒の志をカタチにする「プロジェクト探究」と、企業・自治体と挑む「PBL（課題解決型学習）」を柱に構成。年間 50 名以上の専門家による 1on1 の伴走型支援、北欧やグローバルサウスでの仮説検証型ツアー、さらには認定 NPO と連携した独自の「探究学習ファンド」まで完備。デジタルツールも駆使し、生徒の挑戦を圧倒的なリソースで支える、持続可能な探究学習モデルである。

## 和歌山県立熊野高等学校（和歌山県）

### 「女性に安心して使える「AED シート」の開発と配布活動」

災害時の救命に不可欠な AED について学び、特に女性への使用に伴う配慮やジェンダーギャップの課題を理解することを目的とした授業である。高校生が発案した AED シートを活用し、心肺停止者への適切な応急処置を実習を通して身につけるとともに、救助時のためらいをなくし、誰もが安心して電気ショックや胸骨圧迫を行える環境づくりを学ぶ。さらに、シートの構造や機能を説明し、普及活動にも取り組むことで、すべての命を救うための意識と行動力を育成する内容となっている。

## 島根県立隠岐島前高等学校（島根県）

### 「地域未来共創・グローバル未来共創」

【2 年:地域未来共創(学校設定科目)・3 年:グローバル未来共創(学校設定科目)】

地域共創科における特徴は、毎週木曜日 1~6 限に設定されている本授業にある。生徒の設定するマイテーマに基づくマイプロジェクトを設定し、グローバルに視野を広げながら足元の地域(ローカル)で実践活動(地域の課題解決・価値創造等)を行う。生徒は、教員・コーディネーターで構成されたゼミに所属し、個別最適な伴走支援を受けている。

## 周防大島町立周防大島中学校（山口県）

### 「総合学習からクラブ活動へ、起業実践で「稼ぐ!」に挑戦」

下総合的な学習の時間で、起業体験教材(No.1 ベーカリー)を用い、5W1H でニーズを言語化し、原価から利益・キャッシュフローまで計算して意思決定の根拠を説明します。今年度は 1・2 年(3 学期 6 コマ)で実施し、学びを地域クラブ活動 ASP に接続。企画→仕入→販売→収支報告→改善の PDCA で「稼ぐ!」を実践し、地域貢献と協働を体感します。

## 山口県立下関中等教育学校（山口県）

### 「未来×つながる探究プロジェクト」

学校法人 YIC 学院の仲介で企業等と連携し、探究学習支援 AI「つなビー」や生成 AI を柔軟に活用する授業です。YIC が選定した企業等との協働を通じ、生徒は直接ヒアリングや調査・研究を行い、専門的な視点からプレゼン指導と修正を繰り返します。この実践的なプロセスで高度な思考力・表現力を培い、社会課題に対して主体的に新たな価値を創造できる、誇りと生きる力を持った次世代のリーダー人材を育成します。

### 三豊市立詫間中学校（香川県）

#### 「まず動く、だから変わる～教室から社会へ飛び出す「超実践型」探求プログラム～」

生徒は、身近な課題に対する解決策を考案し、プロトタイプ(試作品)の作成や周囲へのインタビューを通じた検証を繰り返す。このプロセスを通じて、不確実な状況下でも自ら問いを立て、他者と協力しながら試行錯誤する「起業家精神」を養う。最終的には、自分たちのアイデアが社会に対してどのような価値を提供できるかを言語化し、発表する。「正解」や「規模の大きさ」を競うものではなく、「まずは動いてみる(Small Start)」ことに主眼を置く。

### 高知県立大方高等学校（高知県）

#### 「地域に新しい価値を創れ!大方高校の挑戦」

本校におけるアントレプレナーシップ教育は2つの柱がある。

A.2年次の選択科目「観光ビジネス」において、観光を切り口にしたビジネスプラン(着地型観光)構築を通じて起業についての興味関心を高める。

B.みらい起業部による実践。<地域との出会い>を発熱源に想いを具体的な実践として積み重ね生徒の自信や主体的な意欲・態度を養う。

### 土佐塾中学・高等学校（高知県）

#### 「探究を軸に教科横断×地域連携で社会実装する探究循環プログラム」

本コースは総合的な探究の時間を軸に、教科横断・各教科・課外を探究型で連動させている。高知に根差しつつ世界の社会テーマにも接続し、中学では興味・関心を起点に問いを立て、高校では企業・地域団体等と協働して社会課題解決や社会貢献へ発展させる。問い→仮説→検証→振り返りを循環し、地元企業との商品開発・販売を実施。また、クラウドファンディングでは300万円を実現した。運用ガイドと評価観点を整備し、複数教員体制で改善を重ねる教育プログラムとして体系化している。

### 福岡女子商業高等学校（福岡県）

#### 「街・社会を教室に!コンフォートゾーンを飛び越えた学び」

九州のスタートアップエコシステムの活性化と共創を目的とする福岡市主催の「STARTUP KYUS HU」等への参加を、事前学習を含む公認授業として設計。本実践では、起業家・投資家・行政担当者など多様なステークホルダーが交わる宿泊型のイベントで、生徒が様々な参加者と対話し最新テクノロジーやPRの本質に触れることを通して、社会への当事者意識を高め「変革を起こすために自ら踏み出す力」を培うことをねらった。

### 行橋市立泉中学校（福岡県）

#### 「ビジネスモデルの謎解きを通して、未来に向けて自分の課題を見つけよう」

生徒にゲームを通してビジネスモデルの仕組みを考えさせる。お金の流れに着目させることで、モノの流れに気付かせる。この学習をもとに未来計画書を作成し職業について考えさせ、職業を選ぶときに「大切にしたい」と思う順にダイヤモンドランキングに並ばせることで、人によって考えや価値観が異なることに気づかせる。